

浅所小学校白鳥観察班の活動

—50年の伝統に支えられた白鳥観察活動—

平内町立浅所小学校白鳥観察班

039-3311 青森県東津軽郡平内町福館字雷電林1-50

この活動報告は、2006年3月4日(土)に青森県平内町浅所小学校で行われた第30回日本白鳥の会研修会で、浅所小学校白鳥観察班の生徒たちが発表したものを、白鳥担当の畑井真紀子先生にまとめていただいたものである。

浅所小学校の白鳥観察活動は、昭和31年に始まり、今年で50年目を迎えています。初めの頃は、①白鳥に関心のある一部の児童、②次に、学級で、学年で、児童会中の委員会活動、そして4年以上の希望者が行っていました。③児童数の減少から平成5年からは、現在の4年生以上全員の白鳥観察班になりました。親子2代にわたって白鳥観察班をしている人もいます。

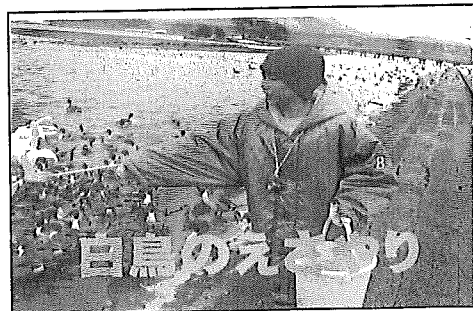
観察の時間は、平成13年度までは、朝と放課後の2回でしたが、平成14年度からは、中休み(10:00~10:20)と放課後の2回の観察活動に変わりました。

では、観察について発表します。

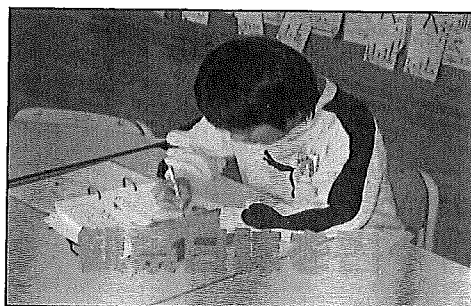
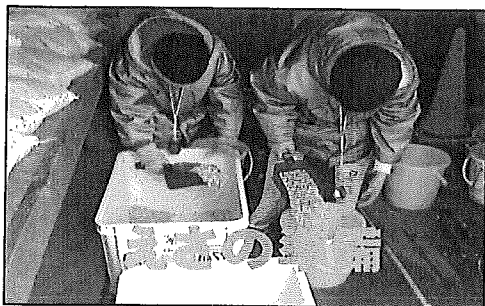
活動は、月曜日から金曜日まで班ごとに交代して行い、一つの班は7、8名で構成しています。

仕事は、次のようになっています。

①浅所海岸の成鳥・幼鳥の羽数を数える(図1)。②雷電橋付近の成鳥・幼鳥の羽数を数えるを主に行い、その後に、餌やりをします(図2)。



学校に戻ってからは、①えさの準備(図3)や餌小屋の掃除をする。②観察日誌を書く(図4)。



③ホワイトボードや黒板に観察結果を書いたり、羽数の数字を張り替えたりする(図5)。



などです。

中休みの白鳥観察の流れを発表します。

中休みの白鳥観察の流れ

- 1 (朝のうちに)
えさ小屋からえさをもってくる。
- 2 身じたくをする。(10:05まで)
- 3 げんかん前に集まって1列で出発する。
- 4 羽数をかぞえ、えさをやる。
- 5 学校にもどり、げんかん前で長ぐつを消毒する。
- 6 あいさつをする。
- 7 係の仕事をして、手洗い・うがいをする。

次に、放課後の白鳥観察の流れを発表します。

放課後の白鳥観察の流れ

- 1 身じたくをする。
- 2 えさ小屋からえさをもってくる。
- 3 げんかん前に集まって1列で出発する。
- 4 羽数をかぞえ、えさをやる。

- 5 学校にもどり、げんかん前で長ぐつを消毒して反省をする。
- 6 観察日誌や記録板に記入する。
- 7 後かたづけをする。手洗い・うがいをする。

では、観察日誌について説明します。
 観察日誌(図6)は、中休み・放課後の2回書きます。成鳥・幼鳥の羽数、干潮・満潮、白鳥の滞留位置などを記録します。放課後は、白鳥の様子なども書きます。標識白鳥がいないか、怪我をしている白鳥はいないか、成鳥になりかけている白鳥はいないか、何か変わった様子がないか、観察したことや感じたことなども書いておきます。

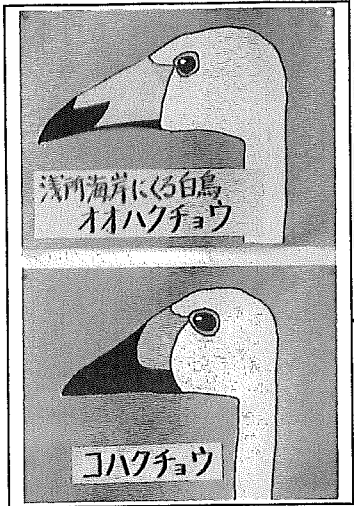


図7. オオハクチョウとコハクチョウの識別.

昨年度浅所海岸で確認された標識白鳥です。今年度も4C73の標識白鳥(図8)が来ています。平成10年度から来ているので、これから何年飛来してくるかによってオオハクチョウの成年数が分かります。

図8. 標識白鳥

平成18年2月21日(火)			
中休み	天候	日暮れ	気温 5℃
羽数	成鳥(160)	幼鳥(12)	合計(172)羽
観察白鳥			
放課後	天候	日暮れ	気温 5℃
潮の干満	干潮 満潮		
滞留位置			
羽数	成鳥(260)	幼鳥(20)	合計(280)羽
観察白鳥	4C73		
鳥の種類・量	トウモロコシ(バケツ7箱)・その他なし		
観察内容	てんてんをあげてかんたんにまたやりたいです。 白鳥が年々入ってきているのでかえってほしいです。		
観察者	中休み	放課後	
観察者から一言	気温の上昇で道路は氷が溶け、湖はよがらなくなってしまいました。		

図6. 観察日誌.

これまでの観察活動で分かったことを紹介します。浅所海岸にくる白鳥は、主にオオハクチョウです(図7)。先発隊としてコハクチョウも来ます。でも、すぐ旅立ってしまいます。滞留するのは、オオハクチョウが中心だと島山さんに教えてもらいました。



平成16年度，観察してきた白鳥の羽数の記録です。グラフにすると図9のようになります。平成16年度は，平成17年1月19日の315羽が最高でした。

観察は，昭和31年から始まりましたが，記録の結果は昭和35年から掲示板に残してあります(図10)。これをグラフに表すと，図11のようになります。

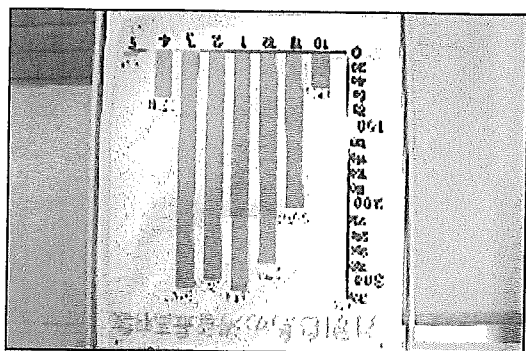


図9. 平成16年度の観察結果。

月別白鳥滞留 最高(日)羽数					
年	月	1	2	3	4
30	12	180	250	310	20
31	0	60	172	420	304
32	8	70	163	300	265
33	0	53	140	200	500
34	11	174	223	610	223

図10. 観察記録を掲示板に残す。

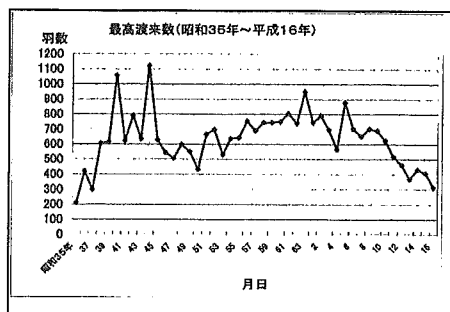


図11. 昭和35～平成16年の最高渡来数。

以上に述べたことから，白鳥の羽数の渡来状況が分かると思います。

これを見ると，浅所に飛来する白鳥は，年々数が減ってきています。理由としては，①地球温暖化，②餌の問題，③他の地域における飛来地の増加が考えられます。浅所海岸への初飛来は，毎年10月20日前後ですが，この時期に合わせて，学校では，「白鳥観察班の組織会」や「白鳥を迎える会」の準備をします。この頃になると，私たち4年生以上の仲間は早く来ないかなあとワクワクして白鳥を待っています。学校の見学帰りに自然と海岸の方に目を向けてしまいます。また，授業中は，白鳥の鳴き声が聞こえないかと耳をすましています。校内放送で，白鳥の初渡来のニュースが流れると，観察が始まるという気持ちが高まってきます。

最後に，私たち浅所の白鳥観察活動を支えてくれた二人の恩人，畠山正光さんと松波夏子さんを紹介します。

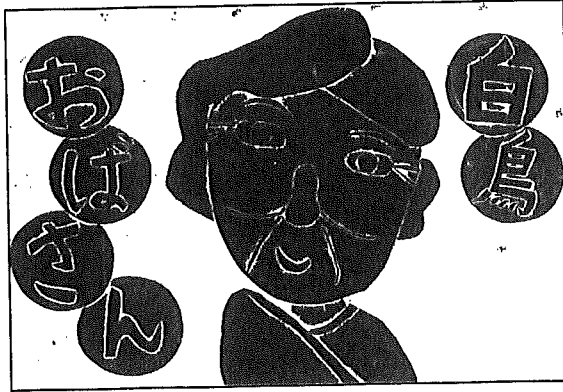
版画紙芝居「白鳥と二つのどうぞう」を紹介します。

(白鳥と二つのどうぞう)



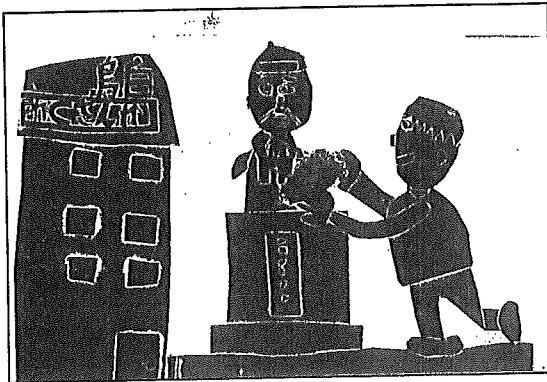
① 私たちの学校には、白鳥に関係のある二つの銅像があります。一つは学校に、そしてもう一つは海岸に。

今日はみなさんに、この二つの銅像を紹介します。



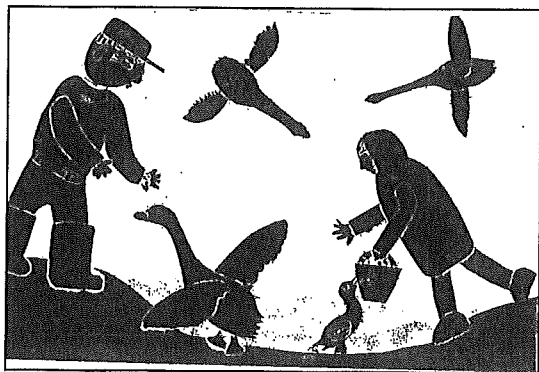
② 一つ目の銅像は、松波さん。ぼくたちは、松波さんのことを“白鳥おばさん”とよんでいます。

昭和46年、浅所海岸の海水が凍って白鳥がえさをとれなくなったことがありました。白鳥観察班にも、白鳥にあげるえさがほとんどなく、何羽かの白鳥が死んでいきました。このことを新聞で読んだある人が名前をかくしてえさ代をおくってくれたのです。それが松波さんでした。



③ 浅所海岸にたっている、二つ目の銅像は、“白鳥おじさん” 島山さんです。

島山さんは、50年以上もえさをやったり、けがをした白鳥を助けたりして白鳥を守ってきた人です。白鳥のことを家族のように宝物のように思っているそうです。島山さんの銅像は、いつでも大好きな白鳥を見ることができるようにと、浅所海岸にたてられました。



① 島山さんが一人が
んばっている姿を見て
いた浅所小学校の生徒
たちの中に、自分たちに
できることはないかと、
協力する人が出てきま
した。

初めはわずかの人で
したが、パンやトウモロ
コシをもって、島山さん
と一緒にえさやりを始
めました。その輪は次第
に広がり、昭和31年、
浅所小学校に白鳥観察
班が誕生しました。

この版画紙芝居「白鳥と二つのどうぞう」は職員室前に掲示してありますので、あとでご覧ください。

浅所小学校の白鳥観察班の活動は、多くの方に支えられ、50年という長い間続いています。私たちの先輩の皆さんは、朝暗いうちに登校して活動を行ったり、雨の日・風の日も行ったり、一日も休むことなく続けてきました。特に吹雪の日は、手がかじかんだりして、羽数を数えるのに苦労したそうです。このようにして続けてきた白鳥観察活動を、次は100年を目指して続けていきたいと思えます。

これで、浅所小学校の白鳥観察班の発表を終わります。



図12. 発表する白鳥班の生徒たち。